

第44回基本方針策定タスク 議事録

1. 日 時：平成 26 年 6 月 17(火) 18:00～20:00

2. 場 所：日本電気協会 4 階 A 会議室

3. 出席者：(順不同, 敬称略)

出席委員：越塚主査(NUSC 幹事/東京大学), 関村(NUSC 委員長/東京大学), 新田(NUSC 副委員長/日本原子力発電), 波木井(NUSC 委員/東京電力), 田中(安全設計/関西電力), 阿部(放射線管理/日本原子力発電), 中西(運転・保守/日本原子力発電), 荒川(日本電気協会)

(8 名)

代理出席者：戸村(耐震/日本原子力発電・白井代理), 小林(構造/日本原子力発電・山田代理)

(2 名)

事務局：鈴木, 大滝, 芝, 富澤, 田村, 井上(日本電気協会)

(6 名)

4. 配付資料

44-1 基本方針策定タスク委員名簿

44-2 第 43 回基本方針策定タスク議事録(案)

44-3-1 原子力規格委員会シンポジウム報告(シンポ, パネルの報告, アンケート等)

44-3-2 原子力規格委員会の基本方針の見直しについて

44-3-3 外部事象の検討体制について(案)

44-3-4 JEAC, JEAG の考え方について

44-3-5 規格に引用している資料等の取扱について(品証分科会関係)

44-3-6 原子力規格委員会資料の HP への掲載方法(資料の掲載)

5. 議事

(1) 定足数確認

主査による代理出席者の承認後, 事務局より, 本日の出席委員は代理出席者を含めて 10 名であり, 会議開催条件の総数 2/3 以上を満たしていることが報告された。

(2) 前回議事録確認

事務局より, 資料 44-2 に基づき, 前回の第 43 回議事録(案)の説明があり, 正式な議事録とすることを確認した。

(3) 報告事項

1) 原子力規格委員会シンポジウム報告

事務局より, 資料 44-3-1 に基づき, 5 月 16 日開催した原子力規格委員会シンポジウムの報告の説明があった。規格委員会には, パネルディスカッションの別紙 2 を除いて報告することとなった。

近藤先生の講演内容は重要な内容が含まれており, バイブル(規格策定の基本)になるものであり, 今後共有する努力が必要であるとの意見が出された。

(主な意見)

- ・パネルディスカッションの報告の別紙 2 については, 発言者の確認が必要ではないか。
→発言者の確認を得ていないので別紙 2 は回収する。規格委員会には別紙 2 を除いて報告する。
- ・パネラーの発表資料は, 公開することとなっていたのではないか。
→発言者の確認を得て, 電気協会の HP に掲載済みである。
- ・アンケートは公開で問題ないか。
→公開で問題ない。
- ・更田委員の挨拶は電気新聞に掲載されていたが, 公開することで良いのでは。

→内容を確認し公開するかどうか検討する。

(シンポジウム参加者の感想等)

- ・アンケートにもあったが近藤先生の話は難しいとの話があったが正直そのように思った。パネルディスカッションで色々な観点での発言があり非常に勉強になった。座長が会場のご意見、質問を上手く対応していたと思った。
 - ・パネルディスカッションで規制も含めて本音の意見がいろいろ出ており、有意義であった。
 - ・少しすれ違った意見ではあったが、今後のためには、議論した意見をまとめる必要があると感じる。
 - ・有意義なシンポジウムであったと思う。規制との関係、規格がエクセレンスを目指すのか等、今後に繋がる多くの意見が出され有意義であった。
 - ・シンポジウムを行った結果、規制と学協会、事業者の関係で論点が明らかになったと思うが、規制側もこの論点に対して今後どのように考えるか、どのように進めるかがまだ明らかになっていない。学協会からのアプローチはこれからも必要である。これらの課題の解決に対する具体策を議論する場として、このシンポジウムを今後も活用する必要がある。
 - ・毎年、今回のようなシンポジウムを行うのは大変であるが、来年以降のシンポジウムのテーマについては、いろいろと考えられる。たとえば、分科会毎に報告、規制との関係、学協会の役割分担、体系化の議論、誰が規格の原案を作るか等テーマは多くあると思う。
- 今後のシンポジウムの進め方については、項目をリストアップし基本方針タスクを中心に検討を進めることとしたい。
- ・近藤先生の説明はよく読むと重要な点がきちんともれなくリストアップされていると思う。学協会としては本資料が規格策定の基本となるものとする。

2) 原子力規格委員会の基本方針の見直しについて

事務局より、資料 44-3-2 に基づき、原子力規格委員会の基本方針の見直しについての報告があった。

シンポジウムの内容を反映し、今後修正し、次回以降の原子力規格委員会には中間報告し、その後の規格委員会に上程する方向で了承された。

(主な意見)

- ・タスクワーキングでは、5.3 の個々の分野に関連した規格の策定活動を見直すこととなっていたと思うが。
- サイクル施設等を合わせて修正する方向で行きたい。
- ・近藤先生の発言のEPRGとはどのような意味か。
- 緊急時対応計画 (Emergency Response Planning Guidelines) のことで避難等のことかと思う。
- ・規格委員会には新旧比較表は出さないのか。
- もう少しタスクで議論したのち規格委員会に報告することとしたい。
- ・幹事に確認してもらうのが良いと思う。
 - ・シンポジウムの開催については、基本方針にどのように反映するのか。
- 5.4 の規格の普及活動に入れている
- ・シンポジウムで、公平性を中立性、公開性を透明性としているが、また近藤先生は中立性を不偏不党性と述べているが、これらを反映するのか。
- 言葉は重要でありきちんと定義する方向としてほしい。いろいろな角度から記載を充実する必要がある。
- ・そのような課題をどのように整理するかが今後の課題である。

- ・次回タスクワーキングで議論し、シンポジウムの内容を反映し規格委員会に報告する。
 - ・次回規格委員会では、シンポジウムの報告を行い、規格委員会の委員に今後の進め方も含めて意見を聞きたい。
 - ・近藤先生の資料で技術基準の体系化と言っているが、近藤先生の言っている技術基準とは規制当局が出すものである。
 - 体系化については、国レベル、学協会、電気協会、分科会のレベル等いろいろなレベルがありそれぞれのレベルで議論し、何を行うかはその役割分担も含めて検討する必要がある。
 - ・サイクル関係の規格作りは、今後、誰が作るかも含めて考える必要がある。役割分担も含めて3学協会として整理する必要がある。我々の重要な役割である。時代を作る役割もあると考える。福島事故の反省の次のステップ、区切りの内容を検討する必要がある。
- 3) 外部事象の検討体制について
事務局より、資料 44-3-3 に基づき、竜巻、外部火災、内部溢水の外部事象の検討体制の案について説明があった。
- 検討タスクを立ち上げる案 2 で進めることで、次回規格委員会でご意見を伺うこととなった。
(主な意見)
- ・規格委員会には本資料で説明し、タスクからは案 2 で進めることでご報告したい。
 - 外部火災は安全設計分科会（火災検討会）の意見を聞く必要があるが、内部溢水は安全設計分科会で検討を行う。
 - ・竜巻の専門家はどうするのか
 - 気象、敷地の特有性、ミサイル等の検討（計算）が必要、現状ではサイトは要塞化となっている。今までの技術とは異なる検討が必要である。
 - ・今後、電気協会で検討が必要と考える。規制当局は、審査ガイドは例示の意見もあった。
 - 規格委員会の傘下で新規のタスクを立ち上げて議論する必要がある。
- 4) JEAC, JEAG の考え方について
事務局より、資料 44-3-4 に基づき、JEAC, JEAG の考え方について説明があり、最後のページを見直して規格委員会に中間報告することとなった。
(主な意見)
- ・エンドースと強い結びつきではなく、従来通りの自主的に決めて行くとしているのか。
 - その様になっている
 - ・シンポジウムでも自主的に決めて行くものとの意見であった。
 - ・本資料はシンポジウムの反映を行う必要があり、規格委員会には中間報告とする。また、最後のページを修正し、次回規格委員会にご報告する。
- 5) 規格に引用している資料等の取扱いについて（品証分科会関係）
事務局より、資料 44-3-5 に基づき、過去の資料の Web 上での共有方針について説明があり、本資料の案で進めこととなった。
(主な意見)
- ・品証分科会以外の分科会での要望はないのか。
 - 構造分科会等でも要望があり、同様な仕組みを作れば要望に沿うことは可能である。
 - ・本資料案でサーバーを立ち上げて進めることとしたい。
- 6) 原子力規格委員会資料の HP への掲載方法（資料の掲載）

事務局より、資料 44-3-6 に基づき、規格委員会の会議資料の HP での公開方針について説明があった。本資料で次回規格委員会に報告することとなった。

(主な意見)

- ・PDFだとコピーできないようになるのか。
→プリントはできるが、テキストデータをコピーできない形式で掲載する。
- ・タスクワーキングでは他学会の状況が入っていたと思うが削除したのか。
→他学会のことなので削除した。なお、事務局に確認したところでは、HP 掲載は難しいとの回答であった。

(4)その他

耐震分科会委員より、耐震分科会では現在規格の見直しを行っており、新規制基準に沿って重大事故対象施設等の設計基準をまとめる必要がある、前半の重大事故とはどのような状態を言うのか、荷重に関するものであり、今後各分科会のご意見を聞く必要がある、必要によっては、他学会に聞く必要がある。課題整理をしているので、今後、タスクにご報告したいと考えるとの紹介があった。

委員長より、JEAC, JEAG4601 についても講習会を念頭に検討してほしい。講習会の場でご意見を伺うことも検討してほしいとの意見があった。

→規制との議論する場がないことと、社会に発信する意味でも講習会の場を活用することは必要と考える。

→若手（次の世代を担う人）を積極的に掘り起こす意味でも講習会は重要である。

以上